

ルカによる福音書 1 章 26～38 節 イエスはなぜ処女から生まれたのか？

最も愛されているクリスマスキャロルのひとつである「きよしこの夜」の最初の一節は、次のような歌詞になっています。「きよしこの夜、星はひかり、救いの御子（みこ）は まぶねの中に…」。

日本語の歌詞には入っていないのですが、英語の歌詞には、「おとめマリアから生まれた救い主」という事実が挿入されています。この事実は、美しい音楽と母と子の情景の中で見落とされがちですが、しかし、クリスマスの意味を形づくる中心的な真理なのです。最も初期のキリスト教の信仰告白においても、「イエスが処女の若い女性から生まれた」という真理は、常にキリスト教の根本的な真理として位置付けられていました。その例として、最も古い二つの信仰告白の文言を見ていきます。紀元 250～300 年ごろに成立した使徒信条には、次のような重要な一節が含まれていました。「我は信ず、主イエス・キリスト、神の独り子を。我らの主は、聖霊によりて宿り、おとめマリアより生まれたまえり…」。

そしてニケア信条には、次のような一節があります。「我らは信ず、唯一の主イエス・キリストを。主は神のひとり子にして、すべての世に先立ち父より生まれ、神よりの神、光よりの光、まことの神よりのまことの神にして、生まれしものにして造られしものにあらず。父と同一の本質をもち、万物はこの方によりて造られたり。我ら人間のため、また我らの救いのために天より下り、聖霊によりておとめマリアより肉体を取られ、人となられたり。」では、なぜキリスト教は歴史的に、この「イエス・キリストの処女降誕（おとめからの誕生）」という教理をこれほど重んじてきたのでしょうか。現代のキリスト教では、この奇跡の性質を軽視しようとする傾向が見られます。聖書の「おとめ」という語は、単に「若い女性」という意味で使われているだけだと主張する人もいます。しかしそれは誤りであることが証明されており、今日の聖書箇所を素直に読むだけでもその解釈は成り立たないことがわかります。また、「神はどんな方法でもイエスを世に送ることができたのだから、処女降誕に特別な神学的意味はない」と言う人もいます。しかし私たちが今日読む聖書箇所は、イエスがなぜ処女から生まれなければならなかったのか、その理由を明らかにしています。その真理を見るために、これからイエスの母マリアが自ら母となることを知らされる場面——ルカによる福音書 1 章 26～38 節——を見ていきましょう。

それでは 26 節から読んでいきましょう。さて、その六か月目に、御使いガブリエルが神から遣わされて、ガリラヤのナザレという町の一人の処女のところに来た。27 この処女は、ダビデの家系のヨセフという人のいいなずけで、名をマリアといった。28 御使いは入って来ると、マリアに言った。「おめでとう、恵まれた方。主があなたとともにおられます。」29 しかし、マリアはこのことばにひどく戸惑って、これはいったい何のあいさつかと考え込んだ。30 すると、御使いは彼女に言った。「恐れることはありません、マリア。あなたは神から恵みを受けたのです。31 見なさい。あなたは身ごもって、男の子を産みます。その名をイエスとつけなさい。32 その子は大いなる者となり、いと高き方の子と呼ばれます。また神である主は、彼にその父ダビデの王位をお与えになります。33 彼はとこしえにヤコブの家を治め、その支配に終わりはありません。」34 マリアは御使いに言った。「どうしてそのようなことが起こるのでしょうか。私は男の人を知りませんのに。」35 御使いは彼女に答えた。「聖霊があなたの上に臨み、いと高き方の力があなたをおおいます。それゆえ、生まれる子は聖なる者、神の子と呼ばれます。36 見なさい。あなたの親類のエリサベツ、あの人もあの年になって男の子を宿しています。不妊と言われていた人なのに、今はもう六か月です。37 神にとって不可能なことは何もありません。」38 マリアは言った。「ご覧ください。私は主のはしためです。どうぞ、あなたのおことばどおり、この身になりますように。」すると、御使いは彼女から去って行った。

この箇所には、皆さんにとってすでに馴染み深い内容が多く含まれていますが、その核心は、マリアが男の人と関係を持ったことのない処女であることが何度も強調されている点にあります。それにもかかわらず、彼女は自分が子どもを身ごもることを知らされました。イエスはこのような形で生まれなければならなかったのです。そして、この聖書箇所はその理由を二つ示しています。第一の理由は、それが預言の成就であったということです。「処女」という言葉が、単なる若い未婚の女性を意味するのではないことは、34 節でマリア自身が天使ガブリエルに答えた言葉、

「どうしてそのようなことが起こるのでしょうか。私は男の人を知りませんのに。」からもはっきりと分かります。これは、マリアが「処女」という言葉を、他の誰かと性的な関係を持ったことのない者という文字通りの意味で理解していたと考えなければ、全く意味をなしません。しかし、まず注目したいのは、この知らせを信じがたいと思うマリアのもっともな反応に対して、天使ガブリエルがどのように応じたかということです。ガブリエルは、マリアが聖霊によって身ごもることになると告げますが、同時に 36 節でこうも語っています。**36 見なさい。あなたの親類のエリサベツ、あの人もあの年になって男の子を宿しています。不妊と言われていた人なのに、今はもう六か月です。**ガブリエルは、神がそれを成し遂げる力を持っておられることを示すために、マリアの親類エリサベツに起こっているもう一つの奇跡を示しました。出産の年齢をとうに過ぎたエリサベツが、やがてバプテスマのヨハネとなる男の子を身ごもっていたのです。これによってマリアは、神がご自身の約束を必ず果たされるお方であることを、目に見える形で確かめることができました。神がご自身の御心を行う力を示すためにしるしを与えられたこの出来事は、イエスの処女降誕が決して偶然ではなく、神のご計画の中で確かに備えられていたことを示しています。これはマリアにとって大切なことでしたが、今を生きる私たちにとっても、この真実は深い意味を持っています。マリアがそのとき、すべての預言の成就を完全に理解していたかどうかは分かりません。しかし、ユダヤの少女であった彼女は、メシアに関する預言を知っていたはずで

す。

その預言のひとつに、メシアは処女から生まれるというものがありました。マタイの福音書は、イエスの処女降誕を記す中で、この出来事を旧約聖書の預言と明確に結びつけています。マタイによる福音書 1 章 18 節には、次のように書かれています。**18 イエス・キリストの誕生は次のようであった。母マリアはヨセフと婚約していたが、二人がまだ一緒にならないうちに、聖霊によって身ごもっていることが分かった。**22 節に移ると、**22 このすべての出来事は、主が預言者を通して語られたことが成就するためであった。**23 「見よ、処女が身ごもっている。そして男の子を産む。その名はインマヌエルと呼ばれる。」それは、訳すと「神が私たちとともにおられる」という意味である。ここで引用されているのは、旧約聖書のイザヤの予言です。イザヤ書 7 章 14 節には、次のように記されています。**14 それゆえ、主は自ら、あなたがたに一つのしるしを与えられる。見よ、処女が身ごもっている。そして男の子を産み、その名をインマヌエルと呼ぶ。**イザヤ書の文脈の中では、イエスとの関係をすぐに見いだすのは少し難しいかもしれませんが。そこで約束された子どもとは、おそらく預言者イザヤとその妻の間に生まれた子であり、当然ながら妻は処女ではありませんでした。この子の誕生は、神ご自身がイスラエルを救われることを、邪悪な王アハズに伝えるためのしるしでした。しかしこの出来事は、神が民を救われるというしるしであると同時に、やがて真の処女降誕によって霊的な救いをもたらす方が現れることを指し示すしるしでもあったのです。そして注目すべきことに、ガブリエルの言葉は、イザヤ書 7 章 14 節の言葉遣いと驚くほどよく似ているのです。31 節には次のように述べられています。**31 見なさい。あなたは身ごもって、男の子を産みます。その名をイエスとつけなさい。**「イエス」という名が、文字通りどういう意味かご存じでしょうか？——それは「ヤハウエ（主）は救われる」、すなわち「神は救う」という意味です。創世記における最初のメシア到来の約束、すなわちサタンを打ち破る救い主の預言には、すでに処女降誕を示唆するような含みが見られます。創世記 3 章 15 節には、こう記されています。**15 わたしは敵意を、おまえと女の間に、おまえの子孫と女の子孫の間に置く。彼はおまえの頭を打ち、おまえは彼のかかとを打つ。」**ここで注目すべきなのは、神が語りかけている相手がアダムではなくエバであるという点です。アダムによってすべての人は罪を犯すようになりましたが、エバ——すなわち「女」を通して救い主が与えられるのです。もちろんこれは新約の光に照らした解釈ではありますが、それでも神がこのような言い方をされたことには重要な意味があります。では、なぜイエスは処女から生まれなければならなかったのでしょうか。それは旧約聖書がそのように預言していたからです。

では、神はこの出来事によって、単に預言を実現するだけでなく、もっと深い目的をもっておられたのではないかと思われる方もいるかと思います。実際に、イエスは他にも数多くの、もっと

明確な預言を成就されました。ベツレヘムで生まれ、アブラハムの子孫としてユダヤ人に生まれ、ダビデの家系に属し、ナザレで育たれました——そのほかにも何百という預言がイエスによって成就しました。では、なぜ神は、数ある明確な預言の中で、あえてこの一見目立たない「処女降誕」の預言を選び、イエスの人としての歩みをこのような形で始められたのでしょうか。この聖書箇所は、その問いに対して、旧約聖書の預言の成就という理由よりもさらに重要な、第二の理由を示しています。その理由とは、「救いを可能にするため」だったということです。このことを理解するためには、まずなぜ神が救いを与えなければならなかったのか——言い換えれば、なぜ私たちに福音が必要なのか——を理解する必要があります。その答えを一言で言うなら、それは私たちが罪人だからです。ローマ人への手紙 3 章 23 節は「**すべての人は罪を犯して、神の栄光を受けることができません**」と述べています。しかし、処女降誕の意味を本当に理解するためには、私たちの罪の本質をより深く見つめる必要があります。聖書が教えているのは、私たちはみな、自分の意思で神に背き、罪を犯してきたということです。ローマ人への手紙 1 章には、私たちすべての者が、神を指し示す被造物の証しを自ら拒んできたと書かれています。20 節には、**20 神の、目に見えない性質、すなわち神の永遠の力と神性は、世界が創造されたときから被造物を通して知られ、はっきりと認められるので、彼らに弁解の余地はありません。**と書かれています。そしてローマ人への手紙 2 章には、私たちが神によって与えられた良心の証しさをも拒んできたと書かれています。14 節から。**14 律法を持たない異邦人が、生まれつきのままで律法の命じることを行う場合は、律法を持たなくても、彼ら自身が自分に対する律法なのです。15 彼らは、律法の命じる行いが自分の心に記されていることを示しています。彼らの良心も証ししていて、彼らの心の思いは互いに責め合ったり、また弁明し合ったりさえするのです。**このように、自然と良心の証しは、私たちすべての者が自らの意思で罪を選び、神の支配を拒んできたことをはっきりと示しています。

しかし、処女降誕が意味することを理解するためには、もう一つの視点——聖書が語る「私たちが罪人であるもう一つの理由」——に目を向ける必要があります。私たちは自分の意思で神に背き罪を犯してきた存在であると同時に、生まれながらにして罪の性質を持った存在でもあるのです。つまり、私たちが罪を選ぶのは、生まれたときからその本性の奥深くまで罪によって汚されているからです。ローマ人への手紙は、最初の人アダムを通してこの罪の性質がすべての人に及んだことを教えています。アダムは全人類の代表、神の前に立つ「代表（**神学的には連邦代表者**）」でしたが、彼が罪を犯したことによって、すべての人がその影響を受け、罪の性質が子孫である私たちに受け継がれることになったのです。ローマ人への手紙 5 章 12 節には、こう書かれています。**12 こういうわけで、ちょうど一人の人によって罪が世界に入り、罪によって死が入り、こうして、すべての人が罪を犯したので、死がすべての人に広がったのと同様に。**しかし、ローマ人への手紙は、アダムを通してすべての人に罪の性質が受け継がれたことを語った直後に、イエスがアダムと同じように人類を代表する方として現れたことを教えています。すなわち、イエスは新しいアダムとして、私たちすべての者を代表する**連邦代表者**としての役割を果たされたのです。ローマ人への手紙 5 章 14 節には、次のように述べられています。**14 けれども死は、アダムからモーセまでの間も、アダムの違反と同じようには罪を犯さなかった人々さえも、支配しました。アダムは来たるべき方のひな型です。**アダムはキリストの型（かた）であり、ある意味でイエスはアダムが最初に置かれていたのと同じ立場——すなわち原罪のない状態——にいない必要ありませんでした。イエスが人間の男性によってではなく、神の聖霊の働きによって宿られたからこそ、今日の箇所はイエスが「聖なる者」として、すなわち罪のないお方としてお生まれになったことを宣言しているのです。ルカによる福音書 1 章 35 節こそ、その鍵となる箇所です。**35 御使いは彼女に答えた。「聖霊があなたの上に臨み、いと高き方の力があなたをおおいます。それゆえ、生まれる子は聖なる者、神の子と呼ばれます。**アダムの「種」、つまり人間の男性を介さずに、聖霊の働きによって宿られたからこそ、イエスは原罪のないお方としてお生まれになりました。処女降誕は、神の御子としてのイエスの罪のない本性を守るために必要な出来事だったのです。その完全に罪のない本性ゆえに、イエスは生涯にわたって一度も罪を犯さず、常に神に従う道を選び取られました。これは私たちには決してできないことです。なぜなら、エペソ人への手

紙 2 章 1 節が示すように、私たちは「**自分の背きと罪の中に死んでいた者**」だったのです。イエスは罪のないお方としてお生まれになり、その聖なる生涯を通して一度も罪を犯されませんでした。その完全に聖い生涯があったからこそ、イエスは十字架の死において完全に罪のない者、すなわち死を受ける理由のない唯一の人として死なれたのです。したがって、彼が流された血は、本来なら流す必要のなかった血でありながら、罪のゆえに死ぬべき私たちに代わって流された血でした。イエスは、私たちの罪の贖いのいけにえ——究極の犠牲、罪のために屠られる最後の小羊——となることがおできになったのです。そのことについて、ペテロの第一の手紙 1 章 18-19 節には、こう書かれています。**18 ご存じのように、あなたがたが先祖伝来のむなしい生き方から贖い出されたのは、銀や金のような朽ちる物にはよらず、19 傷もなく汚れもない子羊のようなキリストの、尊い血によったのです。**私たちの救いそのものが、キリストの処女降誕にかかっています。クリスマスの物語の中ではほんの小さな一場面のように思えるこの出来事は、永遠の救いという視点から見ると、神がキリストの誕生において救いを備えられたすべての御業の中で最も重要な部分なのです。私たちはこの真理を読んで「その通りだ」と思うことはあっても、すぐにマリアとヨセフの旅、羊飼、天使、東方の博士たちといった、クリスマス劇でおなじみの華やかな場面へと心移してしまいがちです。もちろん、それはクリスマスを家族的で親しみやすいものにしたいという思いからかもしれませんし、キリストを信じていない人々にも共感を呼ぶ部分に焦点を当てようとするからかもしれません。けれども、もしマリアという一人の処女が、人間的な関係によらずにみごもるという出来事がなかったなら、この出来事のすべては意味を失ってしまうのです。この驚くべき真理こそ、私たちに礼拝の心と呼び起こすべきものです。なぜなら、この奇跡を通して、神は救いにおいて驚くべき恵みを私たちに示してくださったからです。罪のない神の御子が、私たちの罪をその身に負い、私たちが受けるべき神の怒りを人としての身体の中で引き受けてくださった——その結果、私たちは義と認められ、罪を悔い改めてイエス・キリストを主、救い主として受け入れるとき、神の子どもとされるのです。この知らせに対して、マリアがどのように応答したか——それが 38 節に記されています。**38 マリアは言った。「ご覧ください。私は主のはしためです。どうぞ、あなたのおことばどおり、この身になりますように。」**マリアの神を礼拝する心は、主の御心に従い、婚前の妊娠という恥を耐え忍び、この天からの子の母となることを受け入れた、その従順な服従のうちに表しています。では、私たちはこの真理にどのように応答するのでしょうか。もしあなたがまだ自分の罪を悔い改め、イエス・キリストを主、そして救い主として受け入れていないなら、今日その一歩を踏み出すことを心からお勧めします。イエスがあなたのために捧げられた罪のない犠牲を受け入れ、主に従うとき、クリスマスの見方は根本から変わるでしょう。すでにキリストを知る私たちは、この季節に本当に焦点を当てるべき奇跡——すなわち私たちの救いそのもの——に目を向けましょう。感傷的な雰囲気にとどまるのではなく、救い主イエス・キリストの栄光を見上げるクリスマスへと変えられていくのです。祈りましょう。

Luke 1:26-38 Why did Jesus have to be born of a virgin?

One of the most beloved Christmas carols, Silent night's first verse says, "silent night, holy night, All is calm, all is bright, Round yon Virgin, Mother and Child Holy Infant so tender and mild..." This addition of the simple fact of the virgin birth of Jesus Christ becomes very easily lost in the beauty of the music and thought of a baby and mom, but it is central to why Christmas is important. From the earliest statements of Christian faith, the truth that Jesus was born of a virgin young woman was always included as a core belief of Christianity. Two of our earliest creeds give example of that. The apostles creed dating to about 250-300 AD says in one key phrase, *I believe ...in Jesus Christ, His only Son, our Lord: Who was conceived of the Holy Spirit, born of the Virgin Mary*... And the Nicene Creed says in part, *We believe...in one Lord Jesus Christ, the only-begotten Son of God, begotten of the Father before all worlds, God of God, Light of Light, Very God of Very God, begotten, not made, being of one substance with the Father by whom all things were made; who for us men, and for our salvation, came down from heaven, and was incarnate by the Holy Spirit of the Virgin Mary*... So, why do Christians historically place such an emphasis on this doctrine or teaching of the virgin birth of Jesus Christ? Modern Christianity has actually tried to downplay the nature of this miracle. They have made arguments that the Bible uses the word virgin just to describe a young woman, but that has been proven untrue and the plain reading of our text today argues against this. Others say that God could have brought Jesus into the world in any way he wanted, and they don't deny the virgin birth, they just say it has no particular meaning theologically. On the contrary, our passage today will show us the significant reason that Jesus had to be born of a virgin. To see this truth, we will look at Luke 1:26-38 where Mary, Jesus's mother finds out she will become a mother.

Let's begin reading at Luke 1, verse 26. ²⁶ In the sixth month the angel Gabriel was sent from God to a city of Galilee named Nazareth, ²⁷ to a virgin betrothed to a man whose name was Joseph, of the house of David. And the virgin's name was Mary. ²⁸ And he came to her and said, "Greetings, O favored one, the Lord is with you!" ²⁹ But she was greatly troubled at the saying, and tried to discern what sort of greeting this might be. ³⁰ And the angel said to her, "Do not be afraid, Mary, for you have found favor with God. ³¹ And behold, you will conceive in your womb and bear a son, and you shall call his name Jesus. ³² He will be great and will be called the Son of the Most High. And the Lord God will give to him the throne of his father David, ³³ and he will reign over the house of Jacob forever, and of his kingdom there will be no end." ³⁴ And Mary said to the angel, "How will this be, since I am a virgin?" ³⁵ And the angel answered her, "The Holy Spirit will come upon you, and the power of the Most High will overshadow you; therefore the child to be born^[d] will be called holy—the Son of God. ³⁶ And behold, your relative Elizabeth in her old age has also conceived a son, and this is the sixth month with her who was called barren. ³⁷ For nothing will be impossible with God." ³⁸ And Mary said, "Behold, I am the servant^[e] of the Lord; let it be to me according to your word." And the angel departed from her.

There is a lot in this passage that may be very familiar to you, but the core of it is in the numerous times it is stated that Mary is a virgin who had never been with a man found, but she find out she would have a baby. Jesus had to be born this way, and this text gives us two reasons why. **The first reason it had to be that way is that it fulfilled prophecy.** One primary reason that this application of the word virgin to Mary cannot just mean a random young unmarried woman is how she herself answers the angel,

Gabriel, in verse 34. She answers with the words, “How will this be, since I am a virgin?” This answer makes no sense unless she intends the plain meaning of the term virgin, someone who has never had a sexual relationship with another. But I want to first focus on how Gabriel responds to her fully understandable and completely reasonable response of finding this news pretty unbelievable. Gabriel tells her that it will be through the Holy Spirit that she will become pregnant, but look at what he also says in verse 36, ³⁶And behold, your relative Elizabeth in her old age has also conceived a son, and this is the sixth month with her who was called barren. ³⁷For nothing will be impossible with God.” Gabriel is giving her evidence of God’s power to do this by pointing to another miracle currently taking place in her own family as her relative Elizabeth who is past child bearing age has become pregnant with the boy who will become John the Baptizer. This gives her a current and visible proof that God can do whatever he says he will do. This is important to her, and this idea that God has provided proofs of his ability to do anything he wants points to the idea that God has given other signs that point to the truth of Jesus’s virgin birth is important to us even today. Did Mary fully understand all the prophecies he was fulfilling, perhaps not? But as a Jewish girl, she knew the prophecies of a Messiah.

And one of those prophecies said that the Messiah would be born of a virgin. The book of Matthew in describing the virgin birth of Jesus clearly connects his virgin birth with an Old Testament passage. Matthew 1:18 begins, ¹⁸Now the birth of Jesus Christ^[e] took place in this way. When his mother Mary had been betrothed^[f] to Joseph, before they came together she was found to be with child from the Holy Spirit… then verse 22 says, ²²All this took place to fulfill what the Lord had spoken by the prophet: ²³“Behold, the virgin shall conceive and bear a son, and they shall call his name Immanuel” (which means, God with us). The Old Testament prophet referenced here is Isaiah who is told in Isaiah 7:14, ⁴Therefore the Lord himself will give you a sign. Behold, the virgin shall conceive and bear a son, and shall call his name Immanuel. In the context of Isaiah, it is a little difficult to see the connection to Jesus. The promised baby is likely one then born to Isaiah and his wife who is clearly not a virgin, and is meant as a sign to wicked King Ahab that God was going to deliver Israel. So that birth described as a virgin birth, but not really, was showing God’s deliverance of His people, and more importantly prophesying an actual virgin birth that would bring spiritual deliverance to his people. Look at how closely Gabriel’s words align even with the words of Isaiah 7:14. Verse 31 says, ³¹And behold, you will conceive in your womb and bear a son, and you shall call his name Jesus. Guess what the name, Jesus, literally means? Yahweh, God, saves! I would tentatively say that from the very first mention of a coming Messiah, a Savior who would defeat Satan, there seems to be an implication that leads to the virgin birth. Genesis 3:15 says, I will put enmity between you and the woman, and between your offspring and her offspring; he shall bruise your head, and you shall bruise his heel.” Notice that God is addressing Eve, not Adam. In Adam everyone sins, but through Eve, the woman, a Savior will be given. This is definitely reading a lot through New Testament eyes, but it at least is significant that God says this in the way he does. So why did Jesus have to be born of a virgin? Because the Old Testament prophesied it.

But was there more that God was doing? After all, Jesus fulfilled many other much clearer prophecies. He was born in Bethlehem, Jewish from Abraham, from David’s line, grew up in Nazareth, and hundreds more. So, why this obscure prophecy of a virgin birth and God choosing to bring Jesus’s human existence to a beginning in this way?

This passage gives us a second answer to that question that is more important than the prophecy and the reason for God's plan being accomplished in this way. The second reason it had to be that way is that it enabled salvation. To understand this we need to understand why God needed to provide salvation. Another way to say this, is why do we need the gospel? The short answer that I hope everyone in here can say is that we are sinners. [Romans 3:23](#) that I often quote tells us [all of us have sinned and fall short of the glory of God](#). But to understand the virgin birth, we need to take a deeper look at the nature of our sin. What the Bible teaches is that we are sinners by choice, which means that each of us has willingly sinned against our creator by our actions. [Romans 1](#) says all of us have willingly rejected the testimony of Creation that points to God. [Verse 20 says, ²⁰For his invisible attributes, namely, his eternal power and divine nature, have been clearly perceived, ever since the creation of the world, in the things that have been made. So they are without excuse.](#) And [Romans 2](#) says we have also rejected the testimony of our own God given conscience. [Romans 2:14-15 says, 14 For when Gentiles, who do not have the law, by nature do what the law requires, they are a law to themselves, even though they do not have the law. 15 They show that the work of the law is written on their hearts, while their conscience also bears witness, and their conflicting thoughts accuse or even excuse them...](#) So, the testimony of nature and conscience show we have all willingly chosen to sin and reject God's rule in our lives.

But the virgin birth of Jesus deals with the other way the Bible says we are sinners. We are sinners by choice, but we are also sinners by our very nature. The choice we make to sin, we make because our nature is corrupted by sin at its very core from the day of our birth. [Romans](#) says that through Adam, our first ancestor, who was our representative or in theological terms our federal head, who represented all of humanity in holiness, but through his sin failed for all of us and passed on a sin nature to all of us who descend from him. [Romans 5:12 says, Therefore, just as sin came into the world through one man, and death through sin, and so death spread to all men because all sinned](#)— But right after telling us that all of us through Adam have an inherited sin nature, [Romans](#) tells us that Jesus functions in the same way Adam does, so he represents all of us as our federal head. [Romans 5:14 says, 14 Yet death reigned from Adam to Moses, even over those whose sinning was not like the transgression of Adam, who was a type of the one who was to come.](#) Adam was a type of Christ, so in some way Jesus has to be in the same position Adam originally was – without original sin. Because Jesus was not conceived through a human man but a work of God's Holy Spirit, then our passage today declares that he is born holy, in other words sinless. [Verse 35 of Luke 1 is the key, ³⁵And the angel answered her, "The Holy Spirit will come upon you, and the power of the Most High will overshadow you; therefore the child to be born will be called holy—the Son of God.](#) It is because of the Holy Spirit's actions apart from any "seed" of Adam through a human man, that we have a baby born without original sin. The virgin birth preserves the sinless nature of Jesus's deity as the Son of God. That sinless nature results in a sin-free life where Jesus actively chooses not to sin which none of us can do because as [Ephesians 2:1](#) points out, we are ["dead in the trespasses and sins..."](#) Jesus completely holy life born and lived without sin made it possible for him to be completely innocent in his death on the cross, the only human to ever die and not deserve to suffer death. So that blood he shed as one who did not deserve to shed it, could be shed in our place, who did deserve that punishment. He was able to become our sacrifice of atonement who died as the ultimate sacrifice, the ultimate lamb slaughtered for our sin. So we read in [1Peter 1:18-19, knowing that you were ransomed](#)

from the futile ways inherited from your forefathers, not with perishable things such as silver or gold, but with the precious blood of Christ, like that of a lamb without blemish or spot. So, our very salvation depends on the virgin birth of Christ. This tiny piece of the Christmas story in light of our eternal salvation becomes the most important part of everything God did at the birth of Christ to provide salvation. We are quick to just read this truth and affirm it, but quickly skip to the exciting parts like Mary and Joseph traveling to Bethlehem, the shepherds, the angels, the wisemen and all the other things we make Christmas plays out of. Of course that is because of generally wanting Christmas to be family friendly and focus on the parts that even those who are not Christians can sympathize with. But none of that matters without a virgin girl named Mary conceiving a baby without normal human relationship. That truth should really cause us to worship when we see how this miracle led to the incredible amazing grace that God showed us in salvation, when the spotless Son of God took our sins on himself and bore the wrath of God in his human body that we rightfully deserve...so we could be given his righteousness and made children of God when we repent of our sins and accept Jesus Christ as our Lord and Savior. This is how Mary responded to this news in verse 38, **And Mary said, "Behold, I am the servant^[e] of the Lord; let it be to me according to your word...** Her worship was seen in her submissive obedience to the Lord's will to endure the shame of a pregnancy before marriage and be the earthly mother of this Heavenly child. How will we respond to this truth? To follow Jesus Christ as your Lord and Savior and accept the sinless sacrifice he made on your behalf would change the way you view Christmas. I encourage you to do that today if you have not already repented of your sin and followed Jesus. Those of us who know Christ, you focus on the miracle that truly is our salvation, and that should change the way we celebrate this season, from focusing on the sentimentality to seeing the glory of our Savior Jesus Christ. Let's pray.